

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

|    |       |    |    |    |                      |
|----|-------|----|----|----|----------------------|
| 氏名 | 小田日出子 | 職名 | 教授 | 学位 | 修士(法律学)(九州国際大学1998年) |
|----|-------|----|----|----|----------------------|

|               |                     |
|---------------|---------------------|
| 研究分野          | 研究内容のキーワード          |
| 基礎看護学, 基礎看護技術 | 社会人基礎力育成, 潜在的カリキュラム |

|  |
|--|
| 研究課題   |
| 看護技術教育に関する研究(シミュレーション教育)<br>大学生の社会人基礎力の向上と主体性の育成に関する研究 |

|   |
|---|
| 担当授業科目  |
| 看護技術論(→早期看護実習のみ)(1年前期)<br>生活援助技術論演習(1年後期)<br>フィジカルアセスメント技術演習(1年後期)<br>診療関連技術論(→「吸引」実技試験の実技試験監督及び評価)(2年前期)<br>看護過程論(2年前期)<br>基礎看護学実習Ⅰ(1年後期), 基礎看護学実習Ⅱ(2年前期)<br>看護総合演習(4年前期・後期)<br>看護総合実習(4年前期) |

|   |
|---|
| 授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)   |
| <p>授業科目名【看護技術論(→主に早期看護実習の企画・実施・振り返りを担当)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護技術論の履修者は新1年生110名+再履修者3名の計113名であった。</li> <li>2018年度入学生110名を対象に、看護の“Early exposure”として看護技術論に位置づける2日間の早期看護実習について、今年度は、3病院(JCHO九州病院・小倉記念病院・製鉄記念八幡病院)の見学実習を企画・実施した。なお、再履修者3名については、既に昨年度「早期看護実習」修了のため、別途、「課題レポート」を課し、期間内に提出を求めることとした。</li> <li>本実習のねらいは、病院で療養生活を送る人々を対象に、そこでの看護について、看護師の“Shadowing”を通して臨床看護の役割・機能、看護活動の実際を理解すること、加えて、看護学生であることへの自覚を高め、今後の学習への意欲向上を図ることにある。</li> <li>学生110名のうち、JCHO九州病院で実習に臨む10グループ56名を担当し、早期看護実習を行った。実習前1週間、臨地実習を効果的に進めるためのチーム作りを兼ねて、学生の学習動機の高揚や主体的学習行動を促すために、実習グループ毎に課題学習に取り組みせ、メンバー間で討議する機会を設けた。事後の学習成果発表に向けても、担当した10グループについては、基礎看護学領域助手1名とともに、プレゼンに向けて、きめ細かな助言と指導を行った。</li> <li>実習後の成果発表では、実習施設毎、各グループが準備・作成したスライドによる発表が、3分間の持ち時間を効果的に使いながら行われた。事前学習で共有した実習目標を基に、それぞれ各病院・病棟の特性を捉えた内容が発表されていた。発表後も、それぞれの気づきや発見を基に盛んに意見交換がなされ、学生のそうした在り様やレポート内容から、1年生全体の主体的・積極的な学びの姿勢を垣間見る機会となった。実習後の学生の学びの姿勢からも、看護の“Early exposure”としての本実習の効果はあったと考える。</li> <li>次年度も今年度と同様の形式・内容で、早期看護実習を企画・実施したい。</li> </ul> |

### 授業科目名【 看護過程論 】

- ・ 学生 115 名を対象に、講義・グループワークを組み合わせた授業を展開した。
- ・ 看護学科 LMS (kaname.net) を活用し、毎回の学習目標と授業内容及び授業進行を提示、授業のイメージ化を図るとともに、講義とグループ学習活動を効果的に組み合わせながら、学生の主体的学修を支援した。
- ・ 講義はグループワークの進捗と連動させ、ワークの学習到達目標と照らして、適時、実施した。
- ・ 講義には視聴覚教材 (パワーポイント、VTR 等) を活用した。講義資料をはじめ、使用する教材は全て事前に kaname.net に up し、授業中の資料配布は一切行わず、学生個々の責任で授業準備を整えるようにした。
- ・ グループワークへの支援は、基礎看護学分野の教員 4 名と助手 3 名の計 7 名で行った。教員 1+助手 1 の 2 人体制を基本に、学生 4~5 名のグループを 8 グループずつ担当し、チューター役割を果たした。
- ・ 学習支援体制の充実を図るため、グループを 751 講義室にまとめ、随時、教員間の情報交換を行いながら、指導の標準化に努めた。
- ・ 全 24 グループについて、意図的にグループ間でディスカッションする機会を設け、意見交換を促した。グループ間で相互に刺激し合うことにより、学習へのモチベーションが高まり、最後までよい意味での緊張感を維持した積極的なグループワークが展開できるように配慮した。
- ・ グループワークの振り返りに観点別評価シートを用い、学生が自身の学習活動を客観視するとともに、目標達成状況を確認できるようにした。ねらいは、シートの記載 → 教員の助言 → 助言を受けての修正を繰り返すなかでの思考の深化にあったが、毎回の振り返りを返す者と返さない者とに分かれ、期待したほどの成果は得られなかったように思う。次年度については、シート記載の方法を見直したい。
- ・ 例年同様、グループ間の学習成果の共有を目的に、各グループが導き出した援助技術の実際をロールプレイングで発表した。これも前述の振り返りと同様、熱心かつ積極的に取り組むグループ/そうでないグループ、根拠に基づく援助技術の実践がなされるグループ/そうでないグループと、取り組みにはグループ差が大きかった。事後の質疑応答は比較的活発であった。
- ・ 当該科目の達成度評価は、筆記 (50%)、個人学習/課題レポート (20%)、グループワーク成果 (10%)、学習貢献度 (20%) による総合評価とした。

履修の結果、クラス平均は 72.4 点 (最高 90 点、最低 51 点) と、昨年度と大差なかった。評価の内訳は、秀 2 名、優 20 名、良 51 名、可 38 名、不可 4 名 (うち 1 名は途中休学) で、再試験該当者 3 名に対しては、筆記による再試験を実施、結果は 2 名合格、1 名が再履修で、学生 115 名中 113 名が当該科目の履修を修了した。

上述のとおり、演習を中心に様々に工夫して臨んだ (つもの) 授業であったにもかかわらず、今年度、学生による主観評価は、かなり批判的な意見が多く、例年と大きく異なり、正直、困惑している。具体的には「教員によって言うことが違う」「教員によって質問した際の返答がバラバラ、意見統一してほしい」「教員によってグループワークの進み方が違いすぎて困る」「グループ内でやる人/やらない人がいる」「4 人グループの個人負担が大きい」「グループで参加する人/しない人がいる中で、グループとして評価されるのが悔しい」等々、学生からは、本授業に対する肯定的意見は殆どなく、辛辣な評価であった。科目の主担当者としては驚きの事態であり、なぜこの反応だったかについては、基礎看護学分野を担当する教員・助手間で謙虚に振り返らなければならないと考えている。

総合評価としての成績結果からは、当該科目で「学生が達成すべき目標」は「概ね達成できた」と考えるが、学生の指摘にある教員間の意思疎通の不十分さ、指導内容の統一性の不足、グループ編成方法の再考など、残された課題は多い。学生の主体的学修を促そうとの教員側の意図・試みは全くもって機能しなかったし、学生の意欲・関心という点についても非効果的であった。唯一、看護学科 LMS (kaname.net) の利用数が向上した点のみが評価できる。

### 授業科目名【 生活援助技術論 】

- ・ 学生 105 名 (→前期;退学者 1 名、休学者 2 名、後期;休学者 2 名あり 5 名減) を対象に、生活援助技術のうちの「清潔」単元を講義・演習合せて 10 コマ (20 時間)、「栄養」単元を講義・演習合せて 6 コマ (12 時間) 担当し、DVD による看護技術の反転学習、講義、演習、最後に学生によるパフォーマンスの流れで授業を行った。
- ・ 看護の基本技術習得のための学生支援策として、自作「看護技術手順書」に基づく看護学科 LMS (Kaname.net) への教材 (DVD 等) 提示を継続し、学生にその活用を奨励、技術習得に向けた自主学修の強化を図った。
- ・ 授業後は、知識の整理と蓄積を目的にポートフォリオの作成を促した。また、一定期間を置いた後の「おさら

いテスト」(1)～(5)を準備し、ケア技術のエビデンスとなる知識の定着を図った。

- ・「清潔」ケア技術の演習は、昨年同様の方法で実施した。使用する物品量の多さ、演習の場と時間確保の難しさ、演習前日からの大掛かりな準備、演習後の片付けなど、例年のことながら、最も大変な演習と言える。加えて、1 技術項目をクラス全員で演習すること自体が困難なため、今年度も、「清潔」単元で取り上げる 4 技術項目を、クラス全体での演習が可能な「寝衣交換」「洗髪」と 2 クラスに分かれて行わざるを得ない「全身清拭」「足浴」に分けて企画・実施した。2 クラスに分かれる技術項目(全身清拭、足浴)については、物品準備等に要する時間と関係者の負担軽減を図り、クラス全体の技術習得度を高めるために、時間をおかず演習できるように、当該科目とヘルスアセスメントとを組み合わせた時間割上の工夫を行った。
- ・生活援助技術としての技術到達度を測る「導尿」の実技本試験には、試験監督者として参加した(3 コマ、6 時間)。所定の「技術評価表」に則り、担当学生の技術到達度を評価した。評価後は全体調整会議に加わり、評価の妥当性・公平性を担保した。「導尿」実技試験の合格者は 64(90)/105(114)名で、合格率 60.9(78.9)% と前年度を 2 割近く下回っていた。不合格者 41(24)名中 37(24)名は、後日実施した実技再試験に合格できたが、4(0)名は実技再試験も不合格であった。再試験不合格の 4 名については、技術を再指導した後、実技の再々試験を実施し、各人の技術習熟度を担保した。 ※( )内は前年度の人数。

期末(筆記)試験では、担当した清潔単元の問題(全体の 4 割分)を作成・出題した。最終的に、筆記(60%)、実技(25%)、演習課題/ポートフォリオ及び学習貢献度(15%)で総合評価した結果、105 名中 104 名が当該科目の履修を修了、1 名が次年度再履修となった。

#### 授業科目名【 フィジカルアセスメント技術演習 】

1. 1 年次後期、学生 108 名(1 年次生 105 名+再履修者 3 名)を対象に、観察技術としてのバイタルサイン測定技術、呼吸・循環器系、消化器系(腹部)、感覚器・神経系、筋・骨格系(運動)のフィジカルアセスメントに必要な身体診査技術の習得を目標に、講義・デモンストレーション・技術演習の一連の流れで展開した。
2. 1 単位 30 時間(2 コマ 8 回)に納めるには、かなりボリュームのある内容であり、加えて、バイタルサイン測定技術は実技試験を行うため、学生にとってはハードな科目と言える。
3. 自作の「技術手順書」をもとに、教員によるデモンストレーションの他、看護学科 LMS (Kaname.net) を積極的に活用し、看護技術習得のための学生の自主学習を支援した。
4. 100 名を超える学生に看護基本技術を確実に習得させることは容易なことではない。特に、バイタルサイン測定技術については実技試験を伴うため、昨年同様、4 年次の「看護総合演習(看護管理)」とリンクさせ、当該ゼミ学生 11 名に SA として演習時の技術指導に参加してもらった。1 年生は、日頃、関わる機会の少ない 4 年生に直接指導を受けることで、バイタルサイン測定技術の習得への関心・意欲が高まり、演習への積極的な取り組みにつながっていた。先輩-後輩としての学生間の関係性と相互作用を期待しての依頼であったが、1、4 年生の双方にプラス効果がもたらされていた。具体的には、1 年生は学習意欲の向上と技術習得に向けた積極的な演習への取り組みとして、4 年生は根拠に基づく看護基本技術の振り返りと看護師国家試験(必修問題 目標 IV)に頻出する基礎的知識の見直しと定着化に、それぞれ有効な学習機会となっていた。
5. 実技試験によりスクリーニング技術(バイタルサイン測定技術)の技術習熟度を確認した。科目責任者として、当該実技試験の企画・準備・運営に当たった。実技試験の結果は、受験者 108(114)名中、本試合格者 88(87)名、不合格者 19(27)名で、合格者は全体の 81.5(76.3)%で昨年度を 5.2 ポイント上回り、概ね 8 割の学生がバイタルサイン測定技術を習得できた。本試不合格者 20 名については、後日、同一課題による再試験を実施、15(24)名を合格、5(3)名を不合格とした。不合格者 5 名のうち、1 名は実技本試験、筆記試験共に受験放棄が続き、2018 年度 3 月末をもって退学となった。残り 4 名については、臨地実習中のスクリーニングに不可欠のバイタルサイン測定技術を確実に習得させるために、再度、科目責任者による個別指導・技術チェックを実施し、2 月末の「基礎看護学実習 I」に備えた。(※( )内は前年度の人数)

筆記試験のクラス平均は 60 点満点中 42.2(37.4)点(最高 55.2(53.4)点、最低 29.4(21)点)で昨年度を 4.8 ポイント上回った。総合評価は筆記(60%)、実技(25%)、レポート及び学習貢献度(15%)で行うが、総合評価のクラス平均は 76.6 点(最高 95 点、最低 42 点)、成績の内訳は、秀 4 名、優 50 名、良 39 名、可 10 名、不可 4 名であった。不可=再試験該当者 4 名には筆記(100 点満点)による再試験を実施、その結果、3 名は再試験に合格して履修を修了、残り 1 名は不合格のため、次年度再履修となった。(※( )内は前年度の人数)

| 学 会 に お け る 活 動 |           |                |
|-----------------|-----------|----------------|
| 所属学会等の名称        | 役職名等 (任期) | 加入時期           |
| 日本看護学教育学会       |           | 1998年7月～現在に至る  |
| 日本看護科学学会        |           | 1998年12月～現在に至る |
| 九州看護理論研究会       |           | 1999年4月～現在に至る  |
| 日本看護診断学会        |           | 1999年6月～現在に至る  |
| 日本看護技術学会        |           | 2007年12月～現在に至る |
| 日本看護倫理学会        |           | 2009年6月～現在に至る  |
| 日本がん看護学会        |           | 2009年12月～現在に至る |
| 日本看護管理学会        |           | 2012年10月～現在に至る |

| 2016年度 研究業績等に関する事項                           |         |           |                           |  |
|--|---------|-----------|---------------------------|--|
| 著書、学術論文等の名称                                  | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称       | 概要   |
| (著書)<br>なし                                   |         |           |                           |  |
| (学術論文)<br>1. 西南女学院大学生の<br>キャンパスニーズに<br>関する調査 | 共       | 2019年3月   | 西南女学院大学紀要<br>2019 VOL. 23 | ① 西南女学院大学・大学短期大学部では、将来、専門職となる人材を育成している。専門職間の連携・協働の基盤となる社会人基礎力を強化するべく、学生の主体的学びを促すための環境づくりに必要な基礎資料を得る目的で、キャンパスニーズ調査を実施した。結果から、全体6割の学生がキャンパスに満足していること、正課外学習に注力している学生は1割にすぎないこと、教職員との交流機会を望む声があることが確認された。<br>② 共同研究者：上村眞生， <u>小田日出子</u> ，天本理恵，塚本美紀，高橋幸夫，篠木賢一<br>③ P. 47-60 |
| (翻訳)<br>なし                                   |         |           |                           |  |
| (学会発表)<br>なし                                 |         |           |                           |  |

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

| 研究題目  | 交付団体                    | 研究者<br>○代表者（）内は学外者  | 交付決定額<br>(単位：円) |
|---|-------------------------|---|-----------------|
| ・社会人基礎力養成のための「意図的なHidden Curriculum(潜在的カリキュラム)」構築に関する研究 | 西南女学院大学保健福祉学部付属保健福祉学研究所 | ○上村 眞生<br>小田日出子<br>天本 理恵<br>塚本 美紀<br>篠木 賢一<br>伊藤 直子<br>八尋 春海<br>小川 尚<br>三宅 利佳 | 1,388,000       |

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

| 研究題目 | 交付団体 | 交付決定額<br>(単位：円) | 備考 |
|------|------|-----------------|----|
| なし   |      |                 |    |

社会における活動等

| 団体・委員会等の名称<br>(内容)                           | 役職名等                     | 任期<br>期間等            |
|--|--------------------------|----------------------|
| ・日本看護協会/福岡県看護協会                              | 会員                       | 2005年4月～現在に至る        |
| ・西南女学院大学認定看護師教育課程                            | 認定看護師教育課程検討委員            | 2016年4月1日～現在に至る      |
| ・門司掖済会病院看護部看護研究指導                            | 講師                       | 2016年5月11日～現在に至る     |
| ① 第1回：研究計画書の作成                               |                          | 2018年5月25日           |
| ② 第2回：質問紙調査，質問紙の作成                           |                          | 2018年6月29日           |
| ③ 第3回：データ分析，最終指導                             |                          | 2018年11月28日          |
| ④ 第4回：院内研究発表                                 |                          | 2019年3月16日           |
| ・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル                  | 「討議法」オリエンテーション講師(1時間)    | 2018年6月22日           |
|  | 「討議法」講師(3時間)             | 2018年7月21日           |
|  | 「看護専門職論－看護関連法規」講師(6時間)   | 2018年8月21日           |
|  | 「看護サービス提供論－問題解決法」講師(6時間) | 2018年9月8日            |
| ・独立行政法人地域医療機能推進機構九州地区事務所主催：新任看護師長及び新任副看護師長研修 | 「ファシリテーションに関する基礎知識」講師    | 2018年7月4日，2018年9月12日 |
| ・北九州市国民健康保険窓口業務委託業者選定委員会                     | 選考委員                     | 2018年8月1日            |

|                            |     |  |
|----------------------------|-----|--|
| ・北九州市国民健康保険運営協議会           | 副会長 | 委嘱期間(継続) : 2018年9月1日～<br>2020年8月31日(継続), 2012年2月～現在に至る<br>2018年8月24日 |
| ① 平成30年度第1回北九州市国民健康保険運営協議会 |     |  |
| ② 平成30年度第2回北九州市国民健康保険運営協議会 |     | 2019年2月18日   |

学内における活動等 (役職、委員、学生支援など)

【大学委員会】

● 2018.4.1～2019.3.31 看護学科入学試験委員

- ✓ 大学委員会のうち「入学試験会議」に属し、看護学科入試委員として、看護学科長とともに、2019年度入学試験に関する事項(入学者選抜要項の検討、入学試験実施に関する事項、入学者選抜方法に関する事項、入学者の選抜に関する事項等)の審議に加わり、入学試験の円滑な実施に向けて自身に課せられた業務・役割を遂行した。
- ✓ 一般入学試験(前期)の折、主任監督者として地方会場(山口)に出向、入学試験全般の業務を支障なく遂行した。
- ✓ 助産別科一般入学試験に関して、依頼された業務(入学試験問題作成、推薦入試時面接試験官)を忠実に遂行した。

● 2016.4.1～現在に至る 学び場プロジェクト委員

- ✓ 2016年度より、旧FD研修企画委員会メンバー(5名)のうち、上村眞生准教授(福祉学科)を中心に、教・職・学合同の全学的な取り組みとして、「学びの拠点づくり」プロジェクトの活動を継続して行っている。
- ✓ 教員集団としては、本学共同研究費の助成を受けた「社会人基礎力養成のための『意図的なHidden Curriculum(潜在的カリキュラム)』構築に関する研究」に継続して取り組んでいる。
- ✓ 2018年度「意図的なHidden Curriculum(潜在的カリキュラム)」,通称「要カリキュラム」の構築に向けて、西南女学院生自主活動グループSTEP UPの学生(3学部8学科,現在29名)を中心に、2016年度後期より「要カリキュラム」実行に必要な学内環境の整備と充実を図るための「西南女学院生のキャンパスニーズに関する実態調査」の質問紙の作成に取り掛かり、2017年前期に倫理審査を受審した後、2017年度後期に全学的に各学部・学科の1～3年生を対象に、質問紙調査を実施した。本調査の結果のまとめと考察は、2017年12月に開催されたQ-Linksの場で報告した。さらに、2019年3月発行の西南女学院大学紀要に紙上発表した。
- ✓ 2018年4月、西南女学院生自主活動グループSTEP UPの活動の拠点となる1号館11A,通称「WEST:Women's Empowerment Station」が開設。オープニングセレモニー開催後、いよいよ学生有志約40名による自治活動がスタートした。施設運営の在り方について、事務方関係部署(教務課,学生課,等)と打ち合わせの機会を持ち、今後の運営方針を確認した。
- ✓ 開設後初めての試みとして、看護学科,福祉学科の新一年生を対象に、先輩学生による「履修指導支援」を企画・実施した。教務課との連携を図りながらの実施であったが、開催日の参加学生数は延べ100人を超え、初回にしては上々の取り組みとなった。次年度もさらに充実した支援が行えるよう工夫していきたい。
- ✓ 大学祭では、学生発案の「メイク教室」を企画。プロのメイクアップアーティストにボランティアとして参加いただき、多数の申し込みの中、30名づつ複数回の教室を開催することができた。参加した学生にも大変好評であった。

【学科役割】

- 2016年度より、看護学科入学試験委員を継続して担当している。また、2年生アドバイザー責任者、認定看護師教育課程検討委員及び助産別科一般入学試験関連業務等、学科で与えられた役割は誠実に遂行した。

※ 2016年度様式から、学部長による評価・改善記入(助手については、学科長による評価・改善記入)は行われません。